



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

専門コース第三回開催報告

『十名様免許皆伝：かな?』

専門コース最終回の三日間、今回の事務局が立てた方針は「一人で考えて倒す。イントラは見守る」でした。ところが一日目の夕方、島崎先生とスタッフで検討したと

ころ、「大方の塾生の皆さんはまだそこまでいってないのではないか」という結論。そこで少し方針を変更して一歩戻り、そこそこの助言と、かかり木処理の手伝いはす

ることにしました。

一般的には、山の中で普通の木を倒す事はそれほど難しい作業ではありません。正確に受け口を作り、つるをきつ

ちり残して追い口を入れれば、思った方向にゆっくりと倒す事ができます。込んだところではかかり木にしたうえで、トビや木まわしを使ってはずして倒す事も、慣れれば簡単です。

ただ何かの拍子に、猿も木から落ち、弘法も筆を誤り、船頭も船に酔い、プロもバーをさされたり、思わぬかか

り木を作ってしまったたりするのは。そんな時、誰も見ていないのに周囲をちらつと窺い、口元に自嘲的な笑いを浮かべるもの、それもほんの一瞬のみ、トビや矢であつという間にリカバーしてしまい、何事も無かつたような涼しい顔で次の木に向かう、このあたりがプロとわれわれ素人の違いと言えるのかもかもしれません。

致命的でない失敗、失敗というほどでもない小さなミス、こんな事を何度もくりかえし、ひとつずつ克服して、それを自信として上達していくのだと思います。

保科先生、島崎先生はじめ日々山に入るイントラの方々には伐倒ひとつとってもそれぞれに自分の型を持っていきます。試行錯誤を繰り返して自分

にあつたやり方に落ち着いたのだと思います。がそれでもやはり基本には忠実です。まずは基本をしつかりマスターすると、そしてあとは慣れることかな。



信州大学演習林の70年生ヒノキ林。形質良く伸びています



全員見守る中、島崎先生の模範伐倒



今日のイントラは心なしが少し厳しい。妙に緊張しています



受け口が思い通りにできれば伐倒は八割方成功

専門コース 第三回開催
 10月17日(木)～19日(土)

一日目
 8時30分 島崎先生の山小屋に集合。日程説明。先生方のあいさつ。この三日

間はできる限り自分で考え、他の人に頼らない伐倒をする、という方針でやってみることにしました。車に分乗して伊那市手良沢山の野底財産区有林へ

9時50分 野底財産区有林着。ここはイントラの後藤と川島ペアが山造りを請け負っているところで、面積は全部で約六町歩。今回の伐採予定地三反歩ほどのところもあらかじめ下刈りしておいてくれた。二班に分かれて本数を数え、切る木にテープを巻く。アカマツ林分、カラマツ林分ともに二十五パーセントの間伐率とする。切り捨て間伐なのでできれば等高線方向に倒し、幹が地面に触れるように枝払いと玉切り。

今日は先生方やイントラが事前のアドバイスはしない。間伐開始

12時 昼食



かかり木処理も今回のテーマ。道具を使って自力ではまず



膝に乗せて肘を固定する。チェーンソーのバーがぶれない

1時 間伐再開。中村、藤原班はアカマツ林。谷側に曲がっていて、等高線方向に倒すのが難しい。また斜面で受け口を水平に切るのに少し苦労する。後藤、坂野班でもかかり木処理などでバーを挟まれる光景も多々見られる

3時30分 本日終了

二日目

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。分乗して現場へ。信州大学手良演習林に寄り道して、「将来は伊那谷一のヒノキ林」を見せてもらう。案内はもちろん元演習林教授の鳥崎先生。見事な林でした。さて今日は昨日と違いイントラの事前アドバイスありにする。基本的に忠実に、特にこの点を厳しく

注意する事にする。まずはそれぞれのイントラの模範演技。全く同じ状況での伐倒というのにはあり得ない。同じ樹種でも太さも高さも傾きも枝の張り具合も違う。切るときの風の向きや強さも違う。基本は大切にしつつ、その時々「さじ加減」というものがあり、これも場数をこなさないとなかなか身に付けられない。この「さじ加減」があとの作業の難易に大いに影響を及ぼす事になる。イントラ中村見事な伐倒でした

12時 昼食

1時 再開。肩の力が抜けたのか、昨日に比べらくに倒しているような印象を受ける。

4時 終了。小屋に戻る。6

三日目

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。現場に行き、まずは鳥崎先生の模範伐倒。ご自分で解説しながら予定どおりの方向に、あっという間に倒してしまつた。後藤、坂野班、カラマツの伐倒はアカマツほどは難儀ではない。ほぼ思った方向に倒せるようになってきた。ときにハナイグチのごほうび。今

時から小川さん、藤本さん幹事の、塾生主催の謝恩会。そこで四方山話に花が咲く。ご馳走様でした。明日もあるので遅くならないうちに終了、解散。

今後専門コース一期生が集まれるような機会ができるといいですね。



本日マイチェーンソー初おろし。切れ味抜群



これもマイチェーンソー。自分の道具を持つと上達も早い

年は貴重。

12時 昼食

1時 再開。徐々に間伐が進んで周りが明るくなる。三反歩全部はできなかつたけれど、まあまあ成果。かかり木の処理の方法も身につけていただけたでしょうか。トビ、矢木回しなどの使い方も大方理解いただけただしょうか

4時20分 今日もしっかり働いた。お疲れ様でした。一人としてけがも無く、ありがとうございました。終了、解散

参加者/小川さん、塩田さん、稲垣さん、小林さん、藤本さん、大月さん、片岡さん、吉柴さん、小泉さん、金子さん

講師/保科先生、鳥崎先生、スタッフ/後藤、中村、藤原、坂野、早川

次回以降の予定

集中コース秋の部

10月31日(木)～11月2日(土)

森林調査(樹木分類、測樹)から伐倒、搬出まで森林塾のエキスを一通りやってみましょう。参加される方は鳥崎先生の『山造り承ります』では是非予習される事をお奨めします。愛知県や地元長野県などから15名の方が参加される予定です。両先生は一日目は参加して下さいます。

第十五回「復習」

11月16日(土)

保科先生のカラマツ林見学組と伐倒組に分かれます。

8時30分鳥崎先生の山小屋に集合。見学組は車に分乗して長谷村へ。何ヶ所か見せていただく予定です。保科先生は当日ご祝儀があるのですが

第十六回「炭焼き」

11月30日(土)

今年最後の森林塾です。信大の移動式炭化炉をお借りする予定です。朝までかかりますので可能な方はおつきあいください。

ついでに夕方から忘年会もやってしまおうというのが恒例になっています。火をつければあとは随分暇になりますのでそば打ちもしてみますか。二年生・OBの方もふるってご参加下さい。但し幹事がまわってくるかも。8時30分鳥崎先生の小屋に集



リレー通信

ボクが森に帰りたくなかった訳 山田 光久

「では、続いて山下さん、お願いします。」……早川さんの声が響く。自己紹介の順番は、ゆっくりと、だが、確実に迫ってきた。高鳴る鼓動、さ迷う頭の中。ああ、どおしよう、ドウシヨウ、What should I do……。順番が後のほうでは、使えるキーワードが残っていない。同じような入塾理由は、あらかたみんなに喋られてしまった。追いつめられた……。うーむ、コマツタ、困った。………仕事



でも、楽しかったんですよ、この生活。ダケカンバやコメツガ、ミズナラやリュウセンが醸し出す独特の森の匂い。性格も出身も学籍もまったく違うけれど、でも、なんだか意気が投合できたバイト仲間たち。二、三日単位でクルクル変わる林間学校の小・中学生たち。そんな中でボクの夏は始まった。

方ない。ボクが森に帰ると思った訳でも話すか！

森の中で起きた巨大な変身空を飛びたかったのに視力が弱く、船乗りになろうとしても海運不況だった学生時代。望みを無くしたボクは不良になった。代返、授業中の喫煙は当たり前。学生会室内焚き火ボヤ事件やピラ張り拘束事件なんてのもあった。崩れて生きる。それがボクのトレンドだった。そんな頃にめぐり会ったのは、奥日光の某キャンプ場だった。

「バイト求む。東京から三時間、気候冷涼、三食・賄い・寝床付き、日当四百円。交通費全額支給」。どう？オイシイ条件でしょ。………表向きはね。でもね、知ってる？エートね、タコ部屋生活でしょ、朝四時起床でしょ、悪臭を放つ残飯掃除・ハ工か自分かどちらが先に死ぬかの便所殺虫消毒、それに、管理事務所で徹夜勤務までついている。今ならやる？こんなバイト。

「オニーチャン」と慕われながら生徒と一緒に森に分け入り、薪を拾い集めた午後。子どもたちのガイドで引率し、足を挫いた重い女高生を中腹にある沼まで背負って下山した昼。ニギリ飯二個・チヨコレート一個のゲットと引き換えに、帰らない小学校グループを遭難救助(でもこれは未遂事件で終わった)に向かった夜……。色々な事件があつて、様々な人との出会いを重ねるたびにボクはカドが取れていった。極め付けは「恋のアイスクリーム」。キャンプ場で生まれた恋のこと。

都会に持ち帰ると必ず溶けて流れてしまうという、とても苦い食べ物でした。とにかく、こんな夏を四回重ねるうちに、ボクは(エヘン)好青年に変身していった。

森を哲学すれば沢山あるけれど、ボクはたたくさんの友達に会わせてくれた森が大好きだ。心地よい香りとともに生きる元気を運んでくれる森も。

豊かな人々が再生する豊かな森、日本の未来
三十数年後、鳩吹の森。この森もSさん、Oさん、Fさん、Kさん、Mさん、Hさんなど、夜行性外来種も含む多くの生き物をボクの友達にしてくれた。この多様な生物種たちは、それぞれのユニークな個性を發揮して、微妙なバランスを保ちながら楽しい森林塾を構成している。ン？これって、「エコロジー」の定義と同じこと？

その答えを見つげるために森林塾に来ました。よろしくお願ひします。(ああ、うまくいったワイ、やれやれ。そういえば、あのキャンプ場の村長、いま何してんだろ。毎朝「君が代」と国旗掲揚なんてやらされたっけ……。そうそう、村長が朝からいなかった日。あの日は最高だった。バイト仲間全員が掲揚塔に整列してスクラム。みんなでインターナショナル歌いながら海賊旗を揚げたっけ。村長、バシたら顔を真っ赤にして怒ったぜ、きつと。フフ。と、首尾上々に満悦していたときのこと。「ヤマダ、やまだあ」と誰かが呼んでいる。エツ、ボクは心の外に出たはずだぜ？ナンダア？するともう一度、やまだ、山田」の声。振り向いた。ヒックリ。な、なんで。なんで。村長が後ろに……。座って……。の！？」

某キャンプ場の村長こと、塩田政一さん。じつは、森林塾の三年生だったのです。あるんですねえ、こんな再会って。ともあれ、三十数年ぶりの、また新しい出会いが、ひとつ、始まりました。

豊かな森に向かつて。うーれしっ。

みなさん、こんにちは。今回のリレー通信のバトンをあずかりました和辻寛です。

兵庫県の西宮市から参加しています。昭和三十年うまれの四十七さいです。しことは老人病院の看護助手、介護をしています。ねたきりの患者さんもらつしゃるので、オムツをかえたりもします

いせんは、家具・木工品をつくっていました。岐阜県清見村、横浜市本牧、福島県飯館村などにつり住みながらやっています。店じまいをしました。

震災のため実家の兵庫県宝塚市にもどり、いまのしごとにつきましました。あの震災は、何かしらの覚悟を私にあたえ



リレー通信

車中の自問自答 和辻 晃

豊かな人々が再生する豊かな森、日本の未来
三十数年後、鳩吹の森。この森もSさん、Oさん、Fさん、Kさん、Mさん、Hさんなど、夜行性外来種も含む多くの生き物をボクの友達にしてくれた。この多様な生物種たちは、それぞれのユニークな個性を發揮して、微妙なバランスを保ちながら楽しい森林塾を構成している。ン？これって、「エコロジー」の定義と同じこと？

森はたたくさんの個性を招き入れる。それぞれの人は自分流に森仕事を始める。森は豊かになり、さらに沢山の人を迎え入れる。また、新しい出会いが始まる。そして、もつと森は豊かになる……。ウン、いいね、いいね。日本の森って、まだまだ未来があるじゃん。

三十数年後の再会
さて、さて、話は戻って、とうとうボクの番、山田です。昔、森で過ごした時期がありました。以来、進路に悩んだとき、カノジョに振られたとき、ボクは森に相談に行きました。森はいつでも暖かくボクを迎え、応援してくれました。だから、島崎先生や浜田さんの本を読んだとき、ボクは無性に森に戻ってきたくなりました。『こんなボクにでもできることって何だろ。』

その答えを見つげるために森林塾に来ました。よろしくお願ひします。(ああ、うまくいったワイ、やれやれ。そういえば、あのキャンプ場の村長、いま何してんだろ。毎朝「君が代」と国旗掲揚なんてやらされたっけ……。そうそう、村長が朝からいなかった日。あの日は最高だった。バイト仲間全員が掲揚塔に整列してスクラム。みんなでインターナショナル歌いながら海賊旗を揚げたっけ。村長、バシたら顔を真っ赤にして怒ったぜ、きつと。フフ。と、首尾上々に満悦していたときのこと。「ヤマダ、やまだあ」と誰かが呼んでいる。エツ、ボクは心の外に出たはずだぜ？ナンダア？するともう一度、やまだ、山田」の声。振り向いた。ヒックリ。な、なんで。なんで。村長が後ろに……。座って……。の！？」

某キャンプ場の村長こと、塩田政一さん。じつは、森林塾の三年生だったのです。あるんですねえ、こんな再会って。ともあれ、三十数年ぶりの、また新しい出会いが、ひとつ、始まりました。

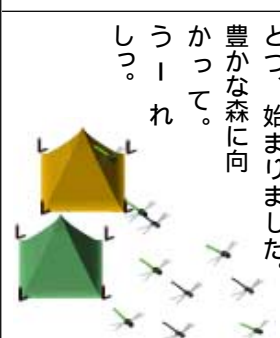
豊かな森に向かつて。うーれしっ。

みなさん、こんにちは。今回のリレー通信のバトンをあずかりました和辻寛です。

兵庫県の西宮市から参加しています。昭和三十年うまれの四十七さいです。しことは老人病院の看護助手、介護をしています。ねたきりの患者さんもらつしゃるので、オムツをかえたりもします

いせんは、家具・木工品をつくっていました。岐阜県清見村、横浜市本牧、福島県飯館村などにつり住みながらやっています。店じまいをしました。

震災のため実家の兵庫県宝塚市にもどり、いまのしごとにつきましました。あの震災は、何かしらの覚悟を私にあたえ





ました。
私は毎度、車で西宮から伊那までかよっています。きょりにして三百三十キロくらい、時間にして四〜五時間くらいかかります。
いつも夜勤明けで仮眠をしてから家まで、講習がおわるとすぐに帰路につき、翌朝出勤します。
かなりハードスケジュールです。つづけられるかなあ。しんどくなっていやにならなかなあ。こんなにまでしてやるなんて、おかしくないかなあ、すこしおそれをなしたこともありました。が、やりたいいきもちはしかたがない。
やってみれば、毎回得るところがあり、満足しています。次回もたのしみで、新鮮な気持ちで伊那にむかうことができます。

をゆつくりと時間をかけてできるようになったことです。こんなに自問自答しながら考える時間、来し方行く末を思う時間はありません。車中では、私はテレビも見られないし、本も読めないし、目をつぶって眠れないので、頭の中の材料だけで、浮きつ沈みつする発想のタネをすくいあげ、思考をつなげ、思いをくみたてます。その作業が気になっていきます。
家でやるうと思ってもなかなかできません。テレビが気になったり、家人に話かけられたり、冷蔵庫をのぞいたり、とても考えことを私は継続できません。これは思わぬ収穫でした。

一、人の原始的なころのうごき、すなわち人情、これにふれあい、これにこたえることです。
一、森とつきあい、森にこたえることです。
一、水にふれあい、水にこたえることです。
介護のしごとをし、森林塾に参加しカヌーをこぐのは、その思いのあらわれです。
そしてさらに

一、自分の力で生きてゆく自給自立を意識した生活をする。
一、自分の力だけで生きてゆけるのではなくて、何ものかの力で生かされている。そのおかしさをすること。
一、他者のよろこびをとともによるこび、他者のいたみ、他者のかなしみを思いやること。
これを私は「自給自立のころざし。共感共生のころざし」とよんでいます。

おむねよかったな。もうこのままあの世にいつてもいいや』と思える心境になるには「ということを考えます。
私にとって「生きるかい」というようなものは何かというと、

間があつて、そんなときは、とてもうれしい一日です。逆に全然通じない時もあります。一進一退の日々です。またときには亡くなられる方もあり、死後の身づくろいをすることもあります。あの世に旅だたれる後姿に「いつておいで」と心の中で声をかけます。私はこの方に最後のあいさつをかけることのできるこの世の見送り人として立ちあうことができます。そして、安らかに旅立られることを祈ります。私は介護のしごとをやめられませんか。
と思いつつ、当面の課題は、山仕事のフィールドをどこに見つけるかだ。車中の自問自答はさらにつづく。

コラム

四季折々。幸いにもこの国には四季が巡ってくる。今、山の上の方からすでに冬が始まっている。四季のうちどれが一番好き？とはよくある質問。
私はこれから来る季節が一番楽しみで好き。今なら冬。冬は寒さがこたえるが、凍てつく白い美しさや静けさ。やたらすりよる猫。冬鳥のなんとも渋い色合いの羽の色。暖を取る楽しみ。
冬はなかなか渋い季節だと思ふ。まあ、掛りの悪いチエーンソーは散々紐を引

て切れたなんてことになつたら涙が出ますが。この頃になつたら冷却風の流れも冬向きにしましょう。機械というのは正直です、意外なほどに。寒気団が去りふわっと暖かくなつたと思つてもエンジンのかかりは冬相応。冷えた金属はもろい。人も機械もウォームアップしましょう。冬といえば清少納言は枕草子では「火など急ぎおこして炭持て渡るもいとつきづきし」である。今と違い昔の家は木と紙の家、冬の朝一番の火熾しはさも寒かつただろう。そして火鉢の炭は調子よく燃えていたに違いない。ところが我が家の火鉢は調子悪い。途中で消えてしまふ。灰はまき風呂の釜から集めてふるったものと、稲藁灰。本来火力は十分なはずで、コントロールするため灰を掛けたりすると聞いている。
しかしうちの場合コントロール以前だ。これでは正月、雑煮のもちを焼けない。それはつまらない。ノウハウは使った人にあり。ちようど来月敬老会を招いて地区の文化祭がある。私どもおじさんは女装して季節外れのハワイアンを踊ることになっている。この会場にセットアップした火鉢を持ち込めば、使った人に教えてもらえるのではないかと、思っている。



おわりに

山から少しずつ紅葉が降りてきた。ヤマウルシ、サクラ、ツツジやカエデ。黄色くなるのはダンコウバイ、クロモジ、シラカバ、カツラやイタヤ。そしてカラマツ黄葉して落ちる頃はもう秋も終盤、冬に備える時期です。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp